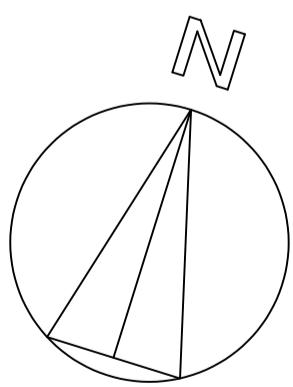
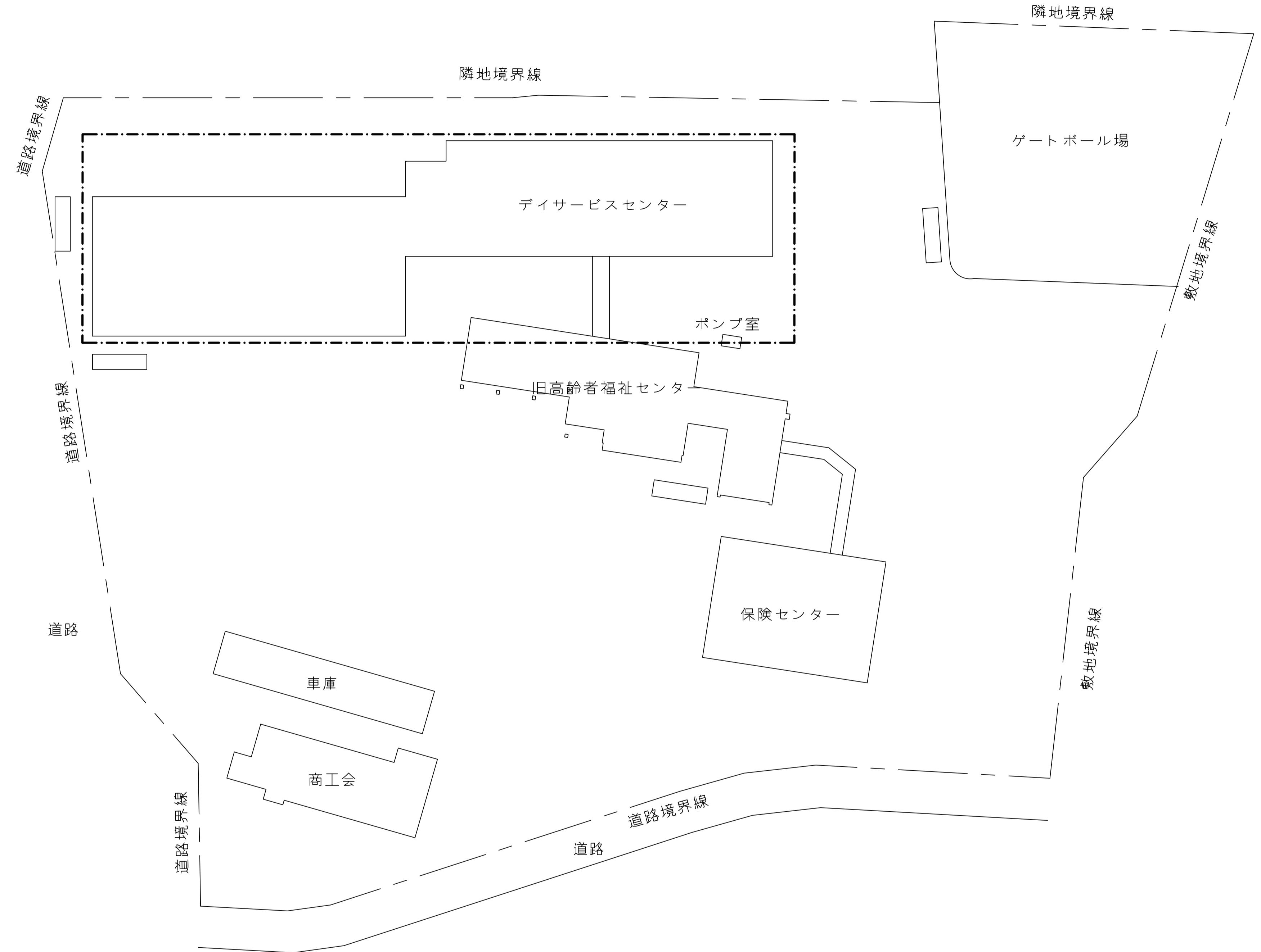


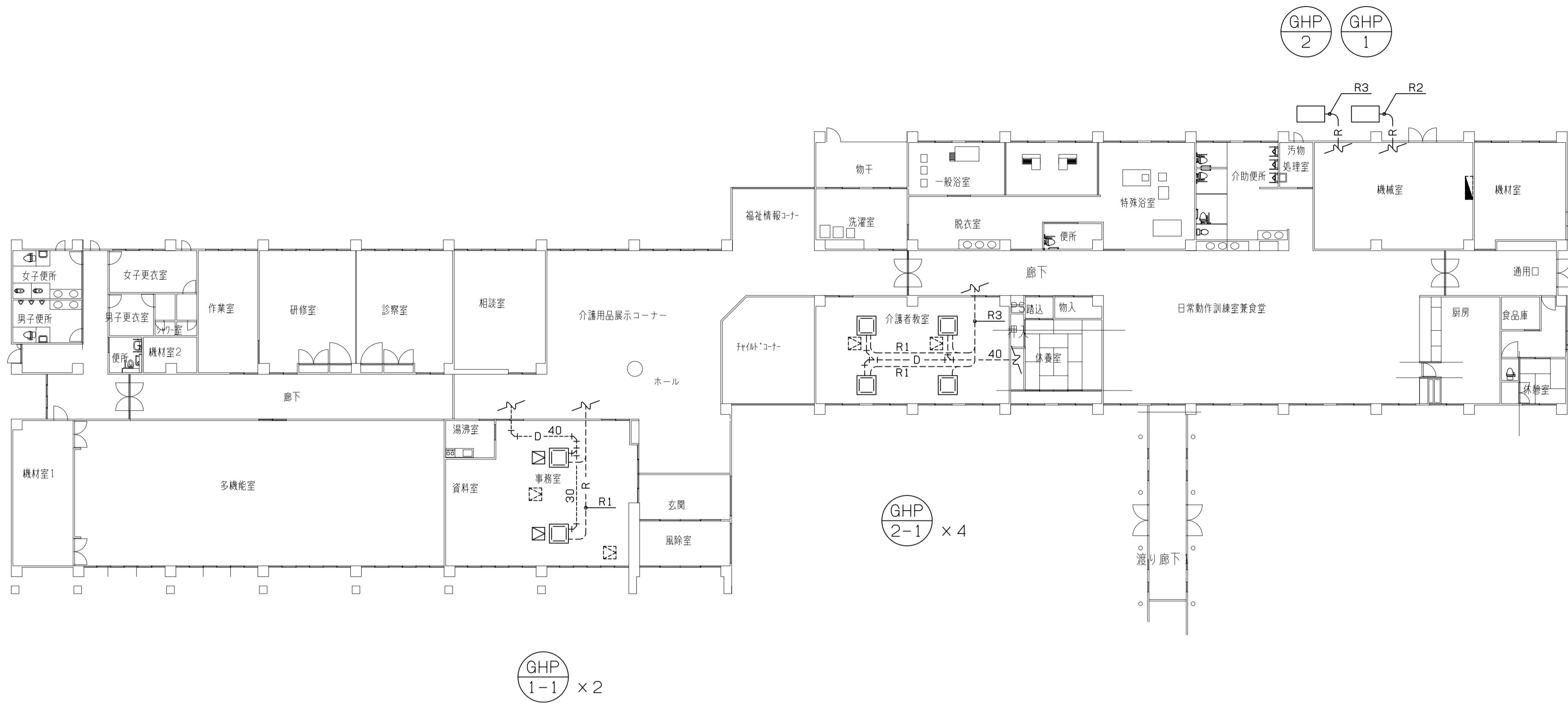
| 機械設備工事特記仕様書 | | | | | 項目 | | 特記事項 | | 種目 | | 適用 | | 項目 | | 特記事項 | | 種目 | | 適用 | | 項目 | | 特記事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-------------|--------------------|--|--|--|----|----------------|---|--|----|--|----|---|---------|--------------------------|------|--|----|---|--------------|---|----|---|---------|---|-----------|-----------------------|-------------|--|--|---|---------|--|--|--|--------------|-----------------------------------|--|---|---------|---|--|---|---------|---|--|---|---------|--|--|---|---------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|--|---|-------------------------|--|--|---|-------------------------|---|
| 工事名稱 | 湖北福祉ステーション空調設備改修工事 | | | | * | 21 別途工事との連絡協議 | 請負人は、工事別の業者側で互いに連絡をとり、定期的に協議会を行い、工事施工上の調整を図ること。また、工事区分の取扱について図示あるも、施工時に必要に応じ協議を行い連絡を密にすること。 | | | | | * | 11 暖房設備 | 工事範囲及び説明 給水方式 配管材料 | | ●直圧式 ○加圧式 ○重力式 屋外埋設配管：●硬質塩化ビニル管 HVIP ○ビニールライニング鋼管 VD ○ボリ粉体ライニング鋼管 PD ○ボリエチレン管 PE 屋内埋設配管：●硬質塩化ビニル管 HVIP ○ビニールライニング鋼管 VD ○ボリ粉体ライニング鋼管 PD 屋内配管：○ビニールライニング鋼管 VA ○ボリ粉体ライニング鋼管 PA ●硬質塩化ビニル管 HVIP | | * | 12 冷房設備 | 冷温熱源機 空気調和機 | | 空調設備の更新工事 ○油焚き吸収式冷温水発生機(二重効用)、 ○水冷チリコユニット ○空冷式ヒートポンチラーユニット (ターボ ○スクリー ○遠心 ○吸収)冷凍機 ○銅管製ボイラ ○鋼製ボイラ ○冰蓄熱空冷ヒートポンチ ●ガスヒートポンチ、●空冷式ビル用エアコン ○ルームエアコン ○パッケージエアコン ○ファンコイルユニット ○ファンコンベクタ ○コンベクタ ○ベースボードヒータ ○床置型 ○天井吊型 ○天井埋込型 ○壁掛型 ○天井カセット型 | | * | 13 空気調和設備 | 放熱器 空調機室内機 配管材料 | | ○水蓄熱冷ヒートポンチ ○水冷用垂鉛めっき鋼管 ○ビニールライニング鋼管 VA ○水道用硬質塩化ビニル管 GPP-VA 冷媒配管：●脱酸銅管 L ●断熱材被覆鋼管(国土交通省仕様) 排水配管：●硬質塩化ビニル管 VP 油配管：OSUS304溶接鋼管 ○圧力配管用炭素鋼鋼管(黒) | | * | 14 土工事 | 保溫冷却自動制御 中央監視 その他 | | 施工は標準図による。 本工事では次の制御を行なう。 中央監視盤を設け、システムの集中運転監視を行なう。 火災予防条例の規定による届け出を行うこと。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 工事場所 | 長浜市湖北町速水 | | | | * | 22 シンナーア等の保管管理 | シンナー等については、工事現場に放置することなく、保管を厳重に行い盗難を防止すると共に、保管数量においても作業前、作業終了後の確認等確実な保管を行なうものとする。 | | | | | * | 15 保証金 | 23 フロンの回収等 | | 冷媒にフロンを使用している機器の撤去においては、メーカー等によりフロンガスを全量回収し、大気放出をしない処理を行なうこと。 また、施工に当たっては特定フロンを使用した材料、工法を用いないこと。 | | * | 16 施工方法の作成登録 | 請負人は、工事実績情報(CORINS)の登録を行い、(財)日本建築情報総合センター発行の「工事カルテ受領書」の写しを提出すること。 | | * | 17 施工体制 | 「公共工事の入札及び契約の適正化の促進に関する法律」により、請負者は市担当者が行う施工体制点検を受けなければならない。また、指標ある施工体制の不備は速やかに是正し、担当者に報告すること。 | | * | 18 過積載の防止措置 | 請負者は過積載等の違法行為防止をとり、道路交規法を遵守すること。 | | * | 19 技術検査 | 液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 20 施工上の留意事項等 | 液化石油ガス設備工事を施工する者は、液化石油ガス設備士であること。 | | * | 21 排水設備 | 液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 二、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 22 喪房設備 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ排水管、汚水管、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 | | * | 23 冷房設備 | 又、機械設備工事内に電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル機器の選定、配管支管については、「建築設備耐震設計工事指針」を参考とする。 ヲ風量調整ダンパー類は、全て工場製品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ配管に空気だまりの無いよう施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ保温工事については、極力遮熱保温保冷業協同組合等県内業者とする。 ヨ該工事において、既設配管、既設配管が合った場合は監督員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内にする。 また機械工事は特に既設配管の先を確認の上、安全に実施する。 | | * | 24 施工途中における適宜中間技術検査を実施する。 | イ液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 25 施工途中における適正化の促進に関する法律 | ハ液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 一、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 26 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ排水管、汚水管、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 | | * | 27 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 又、機械設備工事内に電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル機器の選定、配管支管については、「建築設備耐震設計工事指針」を参考とする。 ヲ風量調整ダンパー類は、全て工場製品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ配管に空気だまりの無いよう施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ保温工事については、極力遮熱保温保冷業協同組合等県内業者とする。 ヨ該工事において、既設配管、既設配管が合った場合は監督員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内にする。 また機械工事は特に既設配管の先を確認の上、安全に実施する。 | | * | 28 施工途中における適正化の促進に関する法律 | イ液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 29 施工途中における適正化の促進に関する法律 | ハ液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 一、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 30 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ排水管、汚水管、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 | | * | 31 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 又、機械設備工事内に電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル機器の選定、配管支管については、「建築設備耐震設計工事指針」を参考とする。 ヲ風量調整ダンパー類は、全て工場製品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ配管に空気だまりの無いよう施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ保温工事については、極力遮熱保温保冷業協同組合等県内業者とする。 ヨ該工事において、既設配管、既設配管が合った場合は監督員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内にする。 また機械工事は特に既設配管の先を確認の上、安全に実施する。 | | * | 32 施工途中における適正化の促進に関する法律 | イ液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 33 施工途中における適正化の促進に関する法律 | ハ液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 一、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 34 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ排水管、汚水管、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 | | * | 35 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 又、機械設備工事内に電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル機器の選定、配管支管については、「建築設備耐震設計工事指針」を参考とする。 ヲ風量調整ダンパー類は、全て工場製品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ配管に空気だまりの無いよう施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ保温工事については、極力遮熱保温保冷業協同組合等県内業者とする。 ヨ該工事において、既設配管、既設配管が合った場合は監督員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内にする。 また機械工事は特に既設配管の先を確認の上、安全に実施する。 | | * | 36 施工途中における適正化の促進に関する法律 | イ液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 37 施工途中における適正化の促進に関する法律 | ハ液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 一、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 38 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ排水管、汚水管、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 | | * | 39 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 又、機械設備工事内に電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル機器の選定、配管支管については、「建築設備耐震設計工事指針」を参考とする。 ヲ風量調整ダンパー類は、全て工場製品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ配管に空気だまりの無いよう施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ保温工事については、極力遮熱保温保冷業協同組合等県内業者とする。 ヨ該工事において、既設配管、既設配管が合った場合は監督員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内にする。 また機械工事は特に既設配管の先を確認の上、安全に実施する。 | | * | 40 施工途中における適正化の促進に関する法律 | イ液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 41 施工途中における適正化の促進に関する法律 | ハ液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 一、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 42 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ排水管、汚水管、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 | | * | 43 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 又、機械設備工事内に電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル機器の選定、配管支管については、「建築設備耐震設計工事指針」を参考とする。 ヲ風量調整ダンパー類は、全て工場製品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ配管に空気だまりの無いよう施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ保温工事については、極力遮熱保温保冷業協同組合等県内業者とする。 ヨ該工事において、既設配管、既設配管が合った場合は監督員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内にする。 また機械工事は特に既設配管の先を確認の上、安全に実施する。 | | * | 44 施工途中における適正化の促進に関する法律 | イ液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 45 施工途中における適正化の促進に関する法律 | ハ液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 一、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 46 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10K)とする。 リ排水管、汚水管、浄化槽と硬質塩化ビニル管の接続部は砂付加工の工場製品を使用し、漏水防止を図る。 | | * | 47 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 又、機械設備工事内に電気設備を含む場合には、別途電気設備工事に全て準ずる。 ル機器の選定、配管支管については、「建築設備耐震設計工事指針」を参考とする。 ヲ風量調整ダンパー類は、全て工場製品とし、(財)日本建築センターの防災認定マークを貼付されたものとする。 ワ配管に空気だまりの無いよう施工し、図示以外で施工必要箇所には自動空気抜き弁を取付ける。 カ保温工事については、極力遮熱保温保冷業協同組合等県内業者とする。 ヨ該工事において、既設配管、既設配管が合った場合は監督員の指示により、迂回等の工事を行い、軽微なものは本工事内にする。 また機械工事は特に既設配管の先を確認の上、安全に実施する。 | | * | 48 施工途中における適正化の促進に関する法律 | イ液化石油ガス設備工事を施工するものは、特定液化石油ガス設備事業者であること。 | | * | 49 施工途中における適正化の促進に関する法律 | ハ液化石油ガスの各種検査は、供給者または保有機関の検査を受け合格すること(記録紙および検査写真を提出すること)。 一、給水配管の接合剤は、上水道用の接合剤とする(継手指定品を除く)。 木地中埋設の鋼管類は防食処理を行なう。また、コンクリート貫通箇所はプラスチックテープを巻きモルタル埋めめる。 | | * | 50 施工途中における適正化の促進に関する法律 | 便へ埋設配管は全てスラブより用いるものとし、その要領は共仕の屋内配管の支持要領に準ずる。 ト暖房給湯設備における試運転用油量は、オイルストレージタンクの1/3以上とする。 チ空気調和設備における仕切弁については、100A以上はバタフライ弁(JIS10 |



配置図 1/400

凡例
□---□ : 施工範囲を示す

| | | | | | |
|--|--|---|-----------------------------|---------------------|---------------------------|
| | |  長浜市 NAGAHAMA | TITLE 湖北福祉ステーション空調設備改修工事 | DRAWING NAME 機器表 | No. 14052309 M / 2 / 3 |
|--|--|---|-----------------------------|---------------------|---------------------------|



平面図 A1: 1/100 A3: 1/200

機器表（新設）

| 記号 | 名 称 | 仕 様 | 電 源 | | 台数 | 設置場所 | 備 考 |
|--------|-----------|---|------|-------|----|-------|---|
| | | | 相(φ) | 電圧(V) | | | |
| GHP1 | ビル用マルチ室外機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 定格冷房能力：14.0kW 定格暖房能力：16.0kW 質量：380kg 燃料種別：LPG(い号) 冷媒：R410A 接続冷媒配管：ガス管φ15.9／液管φ9.5 付属品：その他標準品一式 | 1 | 200 | 1 | 屋外 | 【参考品番】 ヤンマーエネルギーシステム(株) YRMP140G1PB |
| GHP1-1 | ビル用マルチ室内機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 型式：天井埋込カセット形(4方向吹出) 冷房能力：7.1kW 暖房能力：8.0kW 接続冷媒配管：ガス管φ15.9／液管φ9.5 付属品：標準パネル、ワイヤードリモコン、その他標準品一式 | 1 | 200 | 2 | 事務室 | 【参考品番】 ヤンマーエネルギーシステム(株) HCGP71K3 |
| GHP2 | ビル用マルチ室外機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 定格冷房能力：22.4kW 定格暖房能力：25.0kW 質量：620kg 燃料種別：LPG(い号) 冷媒：R410A 接続冷媒配管：ガス管φ19.1／液管φ9.5 付属品：防雪フード(吹出側)、その他標準品一式 | 3 | 200 | 1 | 屋外 | 【参考品番】 ヤンマーエネルギーシステム(株) YNZP224L1PB |
| GHP2-1 | ビル用マルチ室内機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 型式：天井埋込カセット形(4方向吹出) 冷房能力：5.6kW 暖房能力：6.3kW 接続冷媒配管：ガス管φ12.7／液管φ6.4 付属品：標準パネル、ワイヤードリモコン、その他標準品一式 | 1 | 200 | 4 | 介護者教室 | 【参考品番】 ヤンマーエネルギーシステム(株) HCGP56K3 |

機器表（現況・撤去）

| 記号 | 名 称 | 仕 様 | 電 源 | | 台数 | 設置場所 | 備 考 |
|--------|-----------|--|------|-------|----|-------|-------------------------------------|
| | | | 相(φ) | 電圧(V) | | | |
| GHP1 | ビル用マルチ室外機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 定格冷房能力：14.0kW 定格暖房能力：18.0kW 質量：270kg 燃料種別：LPG(い号) 冷媒：R22 接続冷媒配管：ガス管φ19.1／液管φ9.5 付属品：防雪フード、その他標準品一式 | 1 | 200 | 1 | 屋外 | 【参考品番】 ヤンマー・ディーゼル(株) YNM140C1 |
| GHP1-1 | ビル用マルチ室内機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 型式：天井埋込カセット形(4方向吹出) 冷房能力：7.1kW 暖房能力：8.5kW 接続冷媒配管：ガス管φ15.9／液管φ9.5 付属品：標準パネル、ワイヤードリモコン、その他標準品一式 | 1 | 200 | 2 | 事務室 | 【参考品番】 日立アプライアンス(株) RC1-J71K1 |
| GHP2 | ビル用マルチ室外機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 定格冷房能力：22.4kW 定格暖房能力：28.0kW 質量：460kg 燃料種別：LPG(い号) 冷媒：R22 接続冷媒配管：ガス管φ25.4／液管φ12.7 付属品：防雪フード(吹出側)、その他標準品一式 | 3 | 200 | 1 | 屋外 | 【参考品番】 ヤンマー・ディーゼル(株) YNZ224D1 |
| GHP2-1 | ビル用マルチ室内機 | ガスヒートポンプ式ビル用マルチエアコン 型式：天井埋込カセット形(4方向吹出) 冷房能力：4.5kW 暖房能力：5.6kW 接続冷媒配管：ガス管φ12.7／液管φ6.4 付属品：標準パネル、ワイヤードリモコン、その他標準品一式 | 1 | 200 | 4 | 介護者教室 | 【参考品番】 ヤンマー・ディーゼル(株) HCJ45K |